

高等学校外国語科学習指導案

日 時 令和5年11月17日(金)
第3校時 10:50~11:40
対 象 1年A組(17名)
学校名 北海道長万部高等学校
授業者 教諭 菊 地 将 矢
場 所 1A教室

1 単元名

英語コミュニケーションⅠ “Lesson 9 Fighting Plastic Pollution”
教科書: All Aboard! English Communication I (東京書籍)

2 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

プラスチックごみによる環境汚染問題とその解決に向けた取組に関する理解を通して、今後のプラスチック利用について多角的に考え、自分の意見をまとめて相手に話して伝えることができる。

また、相手の意見を聞いて、内容や意図を目的に応じて捉えることができる。

(2) Can-do リストとの関連(1年生 話すこと(発表)、聞くこと)

- ・日常的・社会的な話題について、必要な支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に注意して話して伝えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、既習の知識を活用しながら、目的に応じて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で我々が直面している環境問題とその原因を理解している。 ・本単元関連話題について聞き取る技能及び自分の考えを述べるための技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックゴミを含む環境問題について複数の視点から考え、その関連話題について自分の意見をまとめて論理的に話して伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックゴミを含む環境問題について複数の視点から考え、その関連話題について自分の意見をまとめて論理的に話して伝えようとしている。

3 指導に当たって

(1) 教材観

海洋投棄されたプラスチックごみが、近年問題視されている。ペットボトルや使い捨てのフォーク、ストローなど、日常でよく使用するさまざまなプラスチック製品が、深刻な問題を引き起こしている。長万部町の浜辺もその例外ではない。その存在は身近である一方で、普段生徒がプラスチック製品の使用とそれが引き起こす環境問題について考える機会はあまりない。生徒にとって、今後自らが生活していく環境を守ることは自身の責任であり、その問題の深刻さを適切に理解することはその過程で不可欠だと考える。

したがって、本単元では、日本を含む世界の人々によるプラスチックごみ処分に関する取組を学び、プラスチック製品についてその使用のメリットとデメリットの双方から考えたい。その上で、今後の人々のプラスチック製品の使用に関する考えをまとめ、発表する活動を展開する。

(2) 生徒観

全体的に学習に対して前向きな姿勢が身に付いている。

集団内での学力差に開きがあるため、授業内の全体指導と個別指導のバランスを工夫する必要がある。その際、教員対生徒だけではなく、スモールティーチャー学習も有効な集団である。また、「ペアワーク・グループワークによる意見交流→全体共有」といった段階的な指導をすることで、特に英語に苦手意識をもつ生徒にとって心理的に安心・安全な場を設けることが大切だと考える。

想像力や発信力がある生徒はいるが、現時点ではまだ一面的に物事を捉え考える傾向にある。したがって、自分の意見を述べる活動をする際は、級友との意見交流や ICT 機器を活用した意見集約・提示を通して多様な意見に繰り返し触れ、批判的かつ多角的な視点から物事を考える思考力を育みたい。

(3) 指導観

卒業時（またその後）に生徒がこう育っていてほしいという願いが二つある。

一つ目はインプット面（読むこと、聞くこと）についてである。見聞きする情報を鵜呑みにせず、批判的かつ多角的な視点から自分で考え処理できるようになってほしい。現代の生徒はニュースやソーシャルメディア等を通じて大量の情報にアクセスすることができる。情報に触れる際に大切なことは、「目の前の情報は真実か」「他の意見はどうだろう」と自問することだと私は考える。したがって、私は、ディベート活動のように生徒が多様な意見に触れる機会を意図的・計画的に設けることで、生徒が批判的かつ多角的な視点から情報を吟味することができる姿を目指す。

二つ目はアウトプット面（話すこと、書くこと）についてである。自身と大きく異なる文化的背景をもつ人と円滑なコミュニケーションをとることができるようになってほしい。英語学習の出発点として、「意思疎通で1番大切なことは、なにがなんでも伝えること。」と生徒に伝えたい。内容伝達を重視する姿勢が身に付いたあとで、表現の正確性にこだわってほしい。表現の正確さは、相手の適切な理解につながる。またそこに文法知識を学ぶ必要性があると思う。

相手を説得し動かすことが意思疎通の目標となることもあるため（例：プレゼンテーション、交渉）、AREAの法則といった枠組みを活用して論理的に話す（書く）力も身に付けたい。

表現の適切さについても意識できるようになってほしい。使用する表現の選択は、文脈に大きく依存する（例：相手との関係性は、どんな状況か、口語表現か、文語表現か）。英語を発信する力が付いてきたら、「ただ伝える」から「適切に伝える」ことを目指してほしい。

最後に、非言語伝達について。実際に発される言葉だけではなく、非言語伝達（例：表情、身ぶり、声の調子）からも人は多くの情報を得る。したがって、話す活動（やり取り、発表）の際はその点も意識をするよう促したい。その際、同じジェスチャーでも国によって解釈が異なるという点についても留意するよう指導し、異文化理解を深めたい。

4 単元の指導と評価の計画 (計 12 時間)

時間	ねらい (■) , 言語活動等 (丸数字)	評価の観点			備考
		知	思	態	
1 (文法)	<p>■単元のテーマに対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の目標を確認する。</p> <p>■単元の重要表現を理解し、それを含む英文(教科書本文より抜粋)を伝わりやすく音読できる。</p> <p>①教師のオーラルイントロダクションを聞いて、本単元のテーマについて興味をもつ。</p> <p>②与えられたテーマについて、自分の意見(賛成・反対)を述べる。</p> <p>③単元の重要表現を使った問題を解く。</p> <p>④単元の重要表現を含む教科書本文を使って音読する。</p>				<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>
<p>※本単元のディベート活動において(立論・反論等)、以下の表現を使用することを推奨する。</p> <p>○立論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張: I (don't) agree. ・理由: This is because.... / I have X reasons. <p>First, Second,</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例示: For example.... / According to.... <p>○反論(反駁) ※再反論(再反駁)も同様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張: You said ..., but this is not true. ・理由: (立論と同様) ・例示: (立論と同様) 					
2 3 4 (内容)	<p>■読んだり聞いたりして、教科書本文の要点を捉えることができる。</p> <p>■複数の視点から自分の意見を述べるために、単元の話題について他者と伝え合う。</p> <p>①教科書本文を読む。</p> <p>②賛成派と反対派の両方から、テーマについて自分の意見を話したり書いたりする。</p>				
5 (内容)	<p>■教科書の話題についてさらに理解を深めるため、必要な情報を得たり、要点を捉えたりする。</p> <p>○ Information Hunt</p>				
6 (内容)	<p>■本単元の関連話題についてさらに理解を深める。</p> <p>■関連話題について、他者との交流を通じながら自分の意見を述べる。</p> <p>①題材背景資料(私たちの暮らしとプラスチックの密接な関係について、プラスチックゴミと環境問題について等)</p> <p>②補充リーディング(プラスチックゴミを含む各種ゴミが分解されるまでに要する時間)</p>				

<p>7 (内容の発展)</p>	<p>■読むことを通じて、単元の話題に関する知識を増やす。 ■賛成・反対の立場から、自分の意見を適切な理由とともに述べるができる。 ①科学と人間生活等を通して得た知識について、教員とやり取りを通して英語で理解する。 ②与えられたテーマについて4チームに分かれ(賛成派、反対派それぞれ2チームずつ)、次回のディベートに向けた立論と、想定される反論の準備をする。 ※生徒の実態に合わせ、ディベートを行うための原稿を用意させ、次時に練習させることとする。</p>	<p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。</p>				
<p>8 9 (知識のまとめ・発展)</p>	<p>「ディベートの練習」 ■前時までに準備した原稿(立論)を発表する。 ■質問事項や立論に対する教師からのフィードバックを受け、「ディベート(本番)」に向けたさらなる準備を行う。 ①発表練習→発表グループの発表(2/4グループ) ②立論の発表を聴き、質問・反論を述べる。 ※次時は、本時で発表しなかったグループが発表する。内容は本時と同様。</p>					<p>発表を聞き、内容理解の程度により「聞くこと」の評価を実施する。</p>
	<p>「ディベート(本番)」 ■ディベートを通じて、パフォーマンステストまでに調査すべき内容の手がかりを模索する。 ①ディベート ②自分のディベートのビデオを観ることを通じて、前時に掲げた改善点の克服度を考え、またパフォーマンステストに向けて調べるべき内容を列挙し、振り返りシートに記入・提出をする。</p>					
<p>10 12</p>	<p>パフォーマンステスト：プレゼンテーション(1人) ■与えられたテーマ(ディベートで扱ったテーマと同じ)について、自分の意見を述べる。</p>	○	○	○		
<p>後日</p>	<p>聞くことの評価(定期試験) 本単元の音読活動に使用した英文を聞き、単語を書き出す。</p>	○				
	<p>聞くことの評価②(定期試験) 本単元の関連話題に関する初見の立論(賛成/反対)を聞き、その内容を書いてまとめる。</p>	○	○	○		
	<p>書くことの評価(定期試験) パフォーマンステストで作成した原稿の内容を書く。</p>		○			
	<p>読むことの評価(定期試験) 本単元の関連話題に関する初見の英文を読み、その内容について答える。</p>		○			

5 パフォーマンステストの実施計画

領 域	□ 話すこと [やり取り] ■ 話すこと [発表] □ 書くこと
関連する Can-Do リスト	第1学年（話すこと（発表）） 社会的な話題について、必要な支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
指示内容	次のテーマについて、自分の意見（賛成／反対）を述べよ。 “ <u>The new student council president decided to ban plastic bottles according to the school rules. Do you agree?</u> ”
実施方法	<p>< 1 時間目 > 原稿の作成～写真の準備</p> <p>< 2 時間目 > 写真の準備～発表練習</p> <p>< 3 時間目 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表は個人で行う。 2. 発表内容を録画したうえで提出する。 3. 録画は決められた時間内であれば何度録画してもよいこととする。また提出の際には、その中で一番発表内容が論理的であるものや発表がスムーズに行われたものを提出する。 4. 発表時間は 60 秒を目安とする。 5. 原稿の持ち込み可。 6. 提出先：Classroom 上の指定ファイル。

■ 採点の基準

単元を通して学んだことを踏まえ、次の採点の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、三つの条件を全て満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

○ 「思考・判断・表現」についての三つの条件

①：与えられたテーマに賛成派／反対派の立場から答えている。
②：「クリティカルシンキング」に基づいて、論理的に発表している。
③：教科書以外から得た知識を活用している（例：他教科の教科書、インターネット、図書館の本）。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き手にとって理解が非常に容易である。 ・ 写真を含めた発表物を作成している。 ・ 原稿を見ずに発表するとともに、ジェスチャーを含め、話すスピードを効果的に変化させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの条件を満たした上で、教科書以外の情報を豊富に含み、自分の考えを詳しく述べて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの条件を満たした上で、教科書以外の情報を豊富に含み、自分の考えを詳しく述べて伝えようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミスはあるが、聞き手に意味は伝わる。 ・ 写真を含めた発表物を作成している。 ・ 数回原稿を見ながら、ジェスチャーを含め、話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの条件を満たして話して伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三つの条件を満たして話して伝えようとしている。
c	bの基準を満たしていない。	bの基準を満たしていない。	bの基準を満たしていない。

6 本時の展開（8／10時間目）

(1) ねらい

- ・自グループの立論に対する他生徒からのフィードバックを基に、ディベート本番に向けて取り組むことを明確にすることができる。

(2) Can-do リストとの関連（1年生 話すこと（発表）・聞くこと）

- ・日常的・社会的な話題について、必要な支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、本時で得た知識を活用しながら、必要な情報を聞き取ったり話し手の意図を把握したりすることができる。
- ・日常的・社会的な話題について、既習の知識を活用しながら、目的に応じて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。

(3) 展開

過程	学習内容 (○数字は所要時間)	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (7min)	②本時の目標・ 流れの確認 ⑤立論発表 (練習)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標と流れを理解し、授業中の自分の動きの見通しを掴む ・事前に準備した原稿、写真を使って、発表練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時開始時にグループ毎に着席し、指定された Classroom 上のファイルを開いておくよう指示する。(前時) ・発表はグループ全員が話すようにする。
展開 (36min)	③⑥立論発表 (本番)	<p><u>発表者</u>：立論を発表し、受けた反論・質問の内容を理解する。</p> <p><u>発表者以外</u>：立論を聴き、その内容に対する反論・質問を述べる。</p> <p>○以下の流れを2回繰り返す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②発表者からの発表 ④発表者以外に対し、教師から、発表に係る内容の確認 ④発表者以外から、発表者に対し、口頭での反論・質問 ⑤発表者以外から、Jamboard へ質問・反論の記入 ③教師から、Jamboard への記入内容の確認 <p>※それぞれの内容確認方法については生徒の状況を考慮して行うこととし、状況に応じ、口頭での反論・質問を行わないなど、柔軟に対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝わることを最優先にするため、表現の詳細を指摘しすぎないようにする。 ・発表者とそれ以外の生徒のやり取りを促進するため、教師は生徒に発言・質問をするよう促す。 ・Jamboard への記入時間は、机間巡視を通して、全体の進捗状況次第で多少増減する。
まとめ (7min)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容まとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を教師とのやり取りを通して復習し定着させる。 ・次時の学習内容を教師とのやり取りを通して確認する。 	